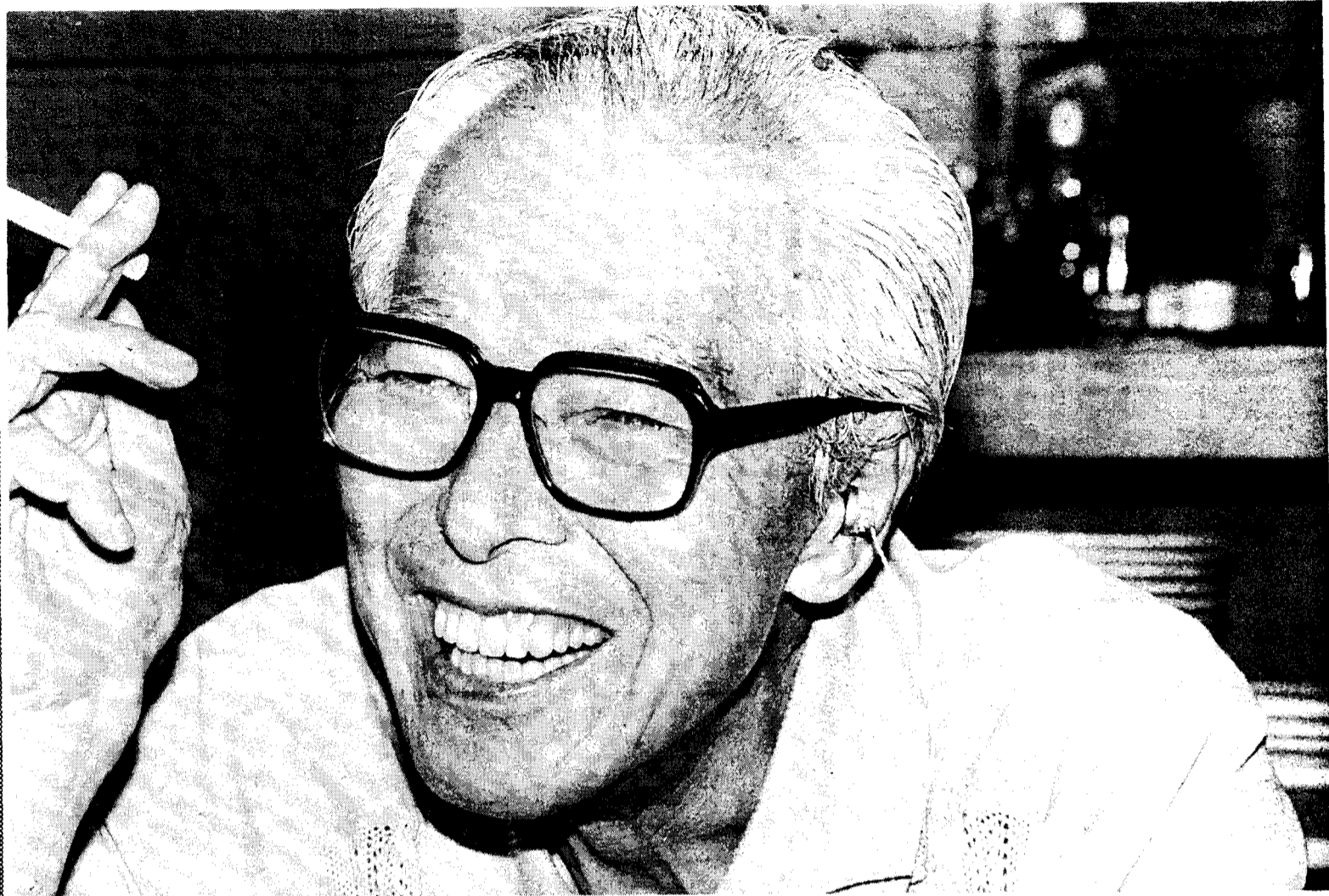


# 日本は変わらなくちやないだめだ



## ときめきインタビュー 映画監督 今井正氏に聞く

「ひめゆりの塔」「米」また逢う日まで」等数々の名作、そしてこの夏話題の「戦争と青春」を撮った映画監督 今井正氏。

「ぼんとは僕が撮った本職なのが一番好き」と笑いながら、高校時代から務金入りの左翼思想家を自認。今年、映画監督生活五十五周年。七十九歳、メガホンを取る際は鋭い。今回の「ときめきインタビュー」は、この巨匠、今井監督に聞く。

インタビューは高橋正志編集委員(日本のうたごえ全国協議会事務局長)。

高橋 注目していました「戦争と青春」、試写会を観たんですが、すばらしい映画ができたと思いました。

市民プロモーター(制作費を市民から公募し、合わせて映画完成後は普及運動にもとむ企画システム)方式での映画というのは日本ではなかなか難しい。今回は大丈夫だ

ろうかという思いもあったんですが、この方も成功し、映画も感動しました。特に大空襲の場面は迫真でした。若い高校生の視点から現代と戦争がよまらえられていると思いました。

原作の早乙女勝元さんたちの映画の制作は、自身東京大空襲の当事者です。」「東京

# 暑中 特集号

91日本の祭典(11月30日)概要決まる(11月1日) 詳細5面

モスクワ・シアター・オペラの魅力(萩京子) 2面

あの日から46年目「日の丸」「君が代」(三輪純永記者) 4面

東京新都庁にうたごえサークル誕生(石川道彦記者) 11面

湘南の音楽の砦—藤沢「クラジャ」12面 他

大空襲を記録する会」の活動等、二十年來の悲願であったと聞いています。

監督は出来上がってどんな感想をお待ちですか?

後悔の連続

今井 僕はね、自分で撮った写真(映画)というのはもう撮ったその日の帰りに、ああそこは失敗だったなあ、もっと違う撮りかたもあったえ。(6-7面へつづく)

うたごえの人でもうしよう。今日もつづいてる。うたごえはってね、そこに進歩があるんじゃないでしょうか。(6-7面へつづく)

んじやないかという思いの連続で、後悔はっかしなすよ。気に入ったというのはいんです。この次はもっといい写真を撮ろう、とがんばる。そして、また後悔する。(笑)

でもね、この次は!と思っから成長するんだろうし、進歩する。ああ今日のは大成功だ、など思っていたら進歩は止まっている。僕は思っで黙る。今度の場合もそうですね。

☆おしらせ☆

今号が暑中合併号のため、次号(9月)日付の発送は8月23日となります。うたごえ新聞社



夏、夏のはじまり、そして……夏の終り。全国各地で恒例の花火大会が開かれている。夜空に華やかな光のパフォーマンスをくりひろげる花火の光(すがた)は、いつでも心を踊らせてくれる。

幼なかつた頃、近所の友だちとはしゃいだ線香花火、浴衣を着せられ(?)家族と出かけた町内の花火大会は、大人の背中と迷子になった記憶と遠くで聞こえた「ドーン」という音があつた……。

七月末、東京で隅田川の花火大会が開かれ年々盛大になりつつあるという。というのも江戸の花火大会を復活させようという声と同時に、隅田川をきれいにして魚の住める川にしようという思いが重なっている。花火大会が年々大きくなるのは川がきれいになっているという期待だとも思う。

隅田川の上流は、奥秩父の大滝村に源流があるという。

この川の流れの側に住んでいる人たちは、この川の水によって暮らしている多くの人たち。きつと同じ思いだったら、もっと素敵な花火大会や花火の思い出がでるんじゃないかな……。

もいすの夏の終り。きつとこの夏も誰もが光のパフォーマンスを楽しんだことでしょうか。故郷で、家の近くで、思い出がよみがえり……。

……。